

なみはや

Public Relation Magazine

2025

1

winter



社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団
〒562-0012 大阪府箕面市白島3丁目5番50号
TEL:072-724-8166 FAX:072-724-8165



私たちはつながるすべての人の夢を応援し、
すべての人の幸せを支え続けます



ご挨拶

まずは、新年のご挨拶の前に、昨年1月1日に発生しました能登半島地震からはや一年が経過しましたが、いまだ震災の爪痕は残った状態であり、改めて被災された方々の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

あらためまして、皆さま、あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、旧年中におきましては、皆様からは当法人の運営に多大なるご支援とご理解をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。

この福祉業界におきましては、多様化する利用者ニーズへの対応や働きやすい職場環境の整備、外国介護人材の活躍や介護DX化の推進による生産性の向上はもちろん、年齢、国籍、価値観、スキルなど、様々な違いを認識し、それらを尊重しながら、異なる視点やアイデアを柔軟に取り入れて活用する「多様性の時代」であることを前提に事業を推進していく事が求められています。当法人におきましては、昨年ICT機器の積極的な導入を図り生産性の向上を推進し利用者サービスを向上させるために、各施設から職員自らが活用していきたい機器を選定し、将来のさらなる展開も含めたプレゼンテーションを行い、採用された機器を導入するといった取り組みを行うことができました。

人材の確保については最重点課題として取り組んでおり、職員からの紹介による採用を増やせるようにLINEを活用したりファラル採用の仕組みの構築や、職員の出身校に赴き学生に働きかけるリクルーターを介した教育機関との連携を進めております。また、特定技能外国人の受け入れを積極的に進めるとともに、インドネシアの国立看護大学との連携によるインターンシップ生の受け入れから特定技能での入国プログラムを新たに開始することができ、次年度から他法人にもご紹介する準備を整えることができました。

そして、社会福祉法人の責務を果たすべく、引き続き地域の福祉ニーズをしっかりと把握し、その課題解決に向けて必要な支援ができる取り組みを進めるとともに、昨年の能登半島地震への職員派遣の経験をもとに、大規模災害発生時に地域に対して少しでも救援協力できるための備蓄品や非常用発電機の備え、早期の全職員の安否確認が可能となる防災アプリの導入などについて取り組みを進めてまいります。

最後になりますが、当法人では「私たちはつながるすべての人の夢を応援し、すべての人の幸せを支え続けます」を法人の使命として掲げています。この使命を果たすべく、職員とともに已年にふさわしく、柔軟でありながら、力強く着実に取り組みを進め、持続発展可能な社会福祉法人として、地域の皆様に愛され共に成長できればと思っております。皆様の本年、ますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

社会福祉法人大阪府社会福祉事業団
理事長 行松英明



社会福祉法人大阪府社会福祉事業団

法人理念

法人の使命 ~Mission~

私たちはつながるすべての人の夢を応援し、すべての人の幸せを支え続けます

OSJ Vision 2031

可能性を高め、
地域とともに躍動する法人へ

Value (行動指針)

実践的理念
「よりそう想い つながる心」

ご利用者のニーズに合わせた支援



OSJ ラダーシステムの導入による人材育成と人材定着

これまで法人の介護職員の人材育成ツールの一つとして活用していた「スキルブック」と令和5年度に研修推進PTで検討した介護ラダーシステムを組み合わせる形で「OSJラダーシステム」を導入しました。各施設に人材育成担当職員を配置し、定期的な面談やフォローアップ等を行い、教育担当職員と情報共有し施設全体で「育てる」環境を整えています。

■階層別目標

ラダースキル⑤ 科長	施設の円滑な運営および、中長期目標の達成のために
ラダースキル④ 主任・総括主任	部署内でリーダーシップを発揮し、部署の業務改善を推進する
ラダースキル③ 4年～中堅職員	自身の担当業務だけでなくチーム全体の業務や課題に取り組む
ラダースキル② 2年～3年目	目的意識を持って自ら考えて“主体的”に行動できるようにする
ラダースキル① 新規採用職員	社会人の基本、担当業務に関する知識や仕事のやり方を身に着的ける

特に新規採用職員（1年目）は対象職員一人に教育担当職員を選任し、入職後半年間の教育期間を設けたうえで基本的な知識・技能を習得できる環境づくりに努めています。

今後は介護、生活支援業務だけではなく、生活相談員や機能訓練指導員など対象職種を広げ、このOSJラダーシステムを職員個別の教育プログラムとして確立し、法人の強みにできるように引き続き取り組んでいきます！



外国介護人材の活躍

令和4年度に、当法人で特定技能外国人の受け入れをスタートし、また、登録支援機関及び職業紹介事業の認可を受けることで他法人の紹介が可能になりました。

令和7年1月時点で、法人内外で39名の特定技能外国人を受け入れました。

当法人では、施設（受ける）側と、外国人のマッチング支援を行い、入国後は、日本の生活に必要な諸手続きをサポートし生活オリエンテーション実施します。また、「認知症」「虐待防止」等の座学、移乗介助、食事介助等の技術を学ぶ教育プログラムを受講し入職準備をしています。そして、入職後は現地教育機関によるwebでの日本語教育機会の提供や、介護福祉士を取得するためのプログラムも提供しています。



なにわ和楽日の会まつりで郷土料理の模擬店を出店

日本での生活、文化に慣れるまでは不安や不便に感じることもあり、法定で定められている3ヶ月に1回登録支援機関の職員による面談を行うことで、不安



の軽減に努めるとともに、配属施設と密に連携し情報共有することで何か課題があれば即時対応することで、皆さんが安心して過ごせる環境を整えています。

NPO 法人なにわ和楽日の会との連携で多様化するニーズに対応

NPO法人なにわ和楽日の会は、平成25年1月に大阪府社会福祉事業団が設立支援を行ったNPO法人です。

主な活動として、介護保険の事業対象者の方や介護保険外サービスとして自費でご利用される方に対して、部屋の掃除、買い物代行、病院の受診付添い、庭掃などのサービスを提供しています。

また、施設等で生活されている高齢者や障害者の方で、身寄りのない方、身内がいらっしゃる方も疎遠になっておられる方を対象に、法人後見人の役割を担う活動も行っています。



後見人制度の説明



健康経営優良法人として

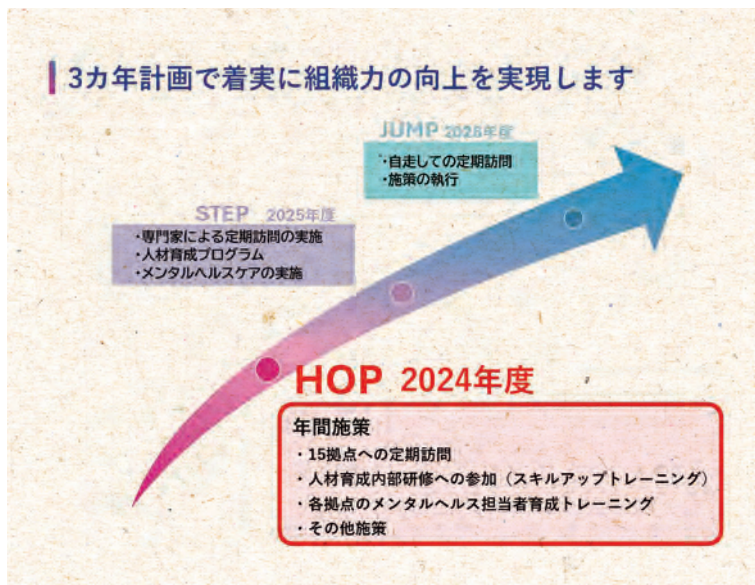
～働きやすい職場環境づくり～



1 健康で安心して働ける職場環境づくりに注力!

当法人では、職員が心身ともに健やかで、元気に働くことを目的としたメンタルヘルスの取り組みを重要視しています。従来の法人産業医の相談窓口に加え、2023年度から全職員が24時間いつでも無料で電話やSNSを通じて専門カウンセラー（臨床心理士）へ相談ができる体制づくりを進め、こころの健康相談ができる環境を整えています。

また、令和6年度の11月から全職員へのメンタルサポートを拡充し、潜在的な課題へのアプローチや管理職への直接的なメンタルサポートを行うことを目的に専門カウンセラーによる施設への定期訪問も開始しました。これらの取り組みを通じて施設内におけるメンタルヘルス対応ができる体制の確立を目指しています。



2 メンタルヘルス対策のさらなる充実を目指して!



管理監督者や直接の指導者となる役職者たちは、職員のストレスに関与している職場の原因を特定して、働きやすい環境になるように改善していく役割があります。職員からの相談に対応したり、職場復帰をサポートしたりするのも管理監督者や現場の役職者の大切な仕事になります。

わたしたちは、指導者向けにメンタルヘルス管理に関する研修を委託業者とともにプログラム化し、指導者が正しく対応できるように、「日常的な関わりの質向上」のトレーニングを実施することで、働きやすい職場を職員自らが作り出せる「自走できる組織づくり」を目指しています。



介護老人保健施設かがやき職員の上村里香さんと優月ちゃん

3 「くるみんマーク」の取得法人として

当法人における昨今の産休・育休取得率については、女性職員に関しては100%取得している状況が続いています。また男性職員に関しても、2023年度は50%の職員が育児休暇を取得し、2024年度においては前年度以上の取得率となる見込みです。

子育てに関わりたいと思う男性職員が増え、男性職員の育休取得率UPにつながったことで、職場全体が子育てしながらでも働きやすい職場環境へ整えていこうという意識に変化し、良い相乗効果をもたらしています。



1 防災特化型アプリの導入にむけて

当法人では、南海トラフ地震等の大規模自然災害発生時における、職員の安全確保と事業継続の重要性を考慮し、防災特化型アプリ「クロスゼロ」の導入を進めています。当法人においては大阪だけではなく、奈良、京都、和歌山から通勤する職員も多く、災害発生時において、職員の確保ができるか否かは、事業継続をする上で非常に重要な課題となっています。

このアプリについては、人員や物資等の応援依頼や派遣、供給調整についても自動配信・集計機能を使って簡単にできることや自身の所在地から最寄りの避難場所・施設まで誘導する機能、そして災害情報・職員の家族の安否確認等の機能が内蔵されていることから、災害時に簡単にそして確実に連絡が取れるツールとして活用したいと考えています。

また、今後、アプリの活用を進める中で、地域の要援護者に対しても対象範囲を広げ活用ができないか検討を進めることとしています。



防災対策と地域防災

2 地域の皆さんとともに防災・減災の取り組み



地域の皆さんとの避難訓練

能登半島地震の災害支援活動を通じて得た経験を生かし、各施設における入居者や職員の方たちの3日分の備蓄品の確保に加えて、3日間で復旧が困難なケースへの対応と地域の防災拠点としての機能をより高めることができるよう、大阪府下を南北の2つのエリアに分けて備蓄用倉庫の設置の検討を進めています。

施設においては、災害時のライフラインを持続的に確保するため、補助金を活用し今年度3施設の非常用発電機の導入を順次進めています。

今後も各拠点において地域や関係機関との連携を強化し、地域における防災機能を高める一助となることで社会福祉法人としての役割を果たしていきたいと思っております。



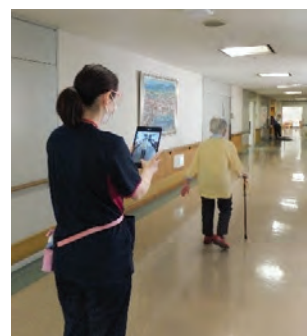
地域の活動にも参加

これからの大阪府社会福祉事業団

介護DX化の推進

介護業界におけるDX化は、業務効率化、特に業務の改善による生産性の向上に大きな期待が寄せられています。ICTを活用することで、業務の効率化がはかれることにより人材不足の解消にもつながり、より質の高い介護サービスを提供することが可能になることから、昨年の6月には法人内でICT機器等導入に関する企画提案の機会を設け各施設から様々な機器の導入についての提案を受けました。

導入にあたっては、各施設にある生産性向上委員会を中心にICT機器を活用する目的を明確にし、現場にある課題解決を図ることで、最終的にはご利用者への支援を充実させることができるよう取り組んでおります。



アプリケーションを活用した歩行分析

「箕面市立障害者自立支援センターいろはもみじ萱野」の開設



施設の完成予定図

令和7年7月の開所に向け箕面市新規事業では「福祉×テクノロジー」でご利用者にとっても働く人にとっても過ごしやすい環境を目指しています。ICT化やロボット機器についても積極的に導入。重度の身体障害や知的障害がある方への視覚や視線を活用した視線導入装置を大事なツールとして活用します。

いろはもみじ萱野では、重度の障害がある方の在宅生活を支えることができる生活介護事業所として看護師やPT、OT、ST、栄養士の配置を行い、多職種連携でご自宅での生活を支えます。大阪府社会福祉事業団が取り組む先進施設として、箕面市の障害福祉サービスについて、新しい流れを作っていけると期待しています。

未来への期待



特別養護老人ホーム 白島荘
山田 汰知 介護職員

なりたい自分

事業団に入職して3年目。現在、ユニットリーダーとして任せていただいています。仕事にやりがいを感じていて、介護福祉士の資格を取得してステップアップを目指しています。

ご利用者に常に安心を届けられる介護職員になりたいです。

法人に期待すること

法人の各施設の職員同士が交流できて、お互いに気軽に情報交換ができる場をたくさん作って頂きたいです。

1年に一度開催される「OSJぶらざ」も職員同士の交流ができる大切な場。これを法人内外にアピールして一緒に働く仲間を増やしてほしいです。



美原荘グループホーム「すごうの郷」
北川 雅裕 介護主任

なりたい自分

役職者としてのキャリアアップを見据えつつも、やはり、第一に介護の現場でご利用者に寄り添える職員でありたいと考えます。

また、介護人材不足に悩む福祉業界ですが、魅力ある職場づくりのために若手職員の手本になるような職員になりたいです。

法人に期待すること

事業団には、仕事のスキルアップができるチャンスがたくさんあります。若い職員にもっとチャレンジできる楽しさを伝えると同時に、ご利用者の信頼を得られる職員の育成をさらに進めてほしいです。



介護老人保健施設 かがやき
ブトウ エカセプティアナ 介護職員

なりたい自分

日本が大好きで、日本で長く働きたいと思っているので介護福祉士の資格取得し、施設の介護職のリーダーを目指しています。スキルを上げていくためには今やっている仕事を確実にしていきたいです。

法人に期待すること

老健かがやきの職員は、それぞれの分野のスペシャリストが揃っています。わからない事は丁寧に教えて頂けるので、特定技能外国人が全施設でも増えていくことを期待しています。

編集 後記

「なみはや」って？ 古事記に記載されている名称が…

なみはやの語源となっている大阪は、古くは「水の都」の名の通り川や水路が張り巡らされていました。これらの川は流れがとても速く「波(浪)が速い」が浪速(なみはや)と呼ばれたのが最古の地名だと言われています。

広報誌「なみはや」を通して、大阪府社会福祉事業団の「思い」や「心」が川の流れのように皆さんに伝わることを願います。